

令和2年度シラバス(国語)

教科(科目)	現代文A	単位数	3	学年(コース)	3学年
使用教科書	大修館書店『現代文A 改訂版』				
副教材等	尚文出版『国語必携パーフェクト演習』 浜島書店『常用漢字の1・2トライ』 数研出版『プレミアムカラー国語便覧』				

1 学習目標

近代以降のさまざまな文章を学ぶことで、言語文化への理解を深め、人生を豊かにする態度を養うとともに、文章を的確に読解したり、作成できる能力を身につける。

2 指導の重点

就職希望者が多く、進学希望先も多岐にわたっているため・・・

- 1 国語の常識や、基礎学力(基本的な言語事項や常用漢字)の習得を目指します。
- 2 読書の機会を増やし、様々な文章を提示することで、自らの人生について考えを深めることを目指します。
- 3 自分の考えを書いたり発表することで、社会人として通用する言語能力を身に付けることを目指します。

3 指導計画

月	単元名	教材	学習内容	時間	評価方法
4	随想	大江健三郎『どんな人になりたかったか』	<ul style="list-style-type: none"> ・随想の面白さを味わい、自分の生き方を見つめる。 ・筆者が理想とする人間像を読み取る。 ・自分がどんな人になりたいか考え、作文する。 	5	作文 定期考査 授業の取り組み
5	小説	よしもとばなな『ざしきわらし』	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情を読み取り、「ざしきわらし」が何を象徴しているか理解する。 ・小説を読み、その楽しさを味わい、読書への意欲を高める。 	7	
5	評論	上田恵介『ウサギの耳はなぜ長い』	<ul style="list-style-type: none"> ・「共進化」の概念を理解し、自然に対する興味を深める。 ・生物の生態や進化に興味・関心を深める。 	9	作文 定期考査 授業の取り組み
6	評論	坂村健『人工の自然』	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の発達と自然との関係について、主張を読み取る。 ・身の周りの「自然」について考えたり、話し合う。 	9	
7	評論	佐藤雅彦『情報の力関係』	<ul style="list-style-type: none"> ・情報化社会で生活していくために、言語や情報のあり方を理解する。 	8	
	言語	『社会生活と文章』	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活で使用される多様な文章について、伝達上の工夫を理解して、自らも応用できるようにする。 	8	
8	詩・短歌・俳句	詩4編・短歌10首・俳句10句	<ul style="list-style-type: none"> ・作者、作品について学ぶ。 ・音読を繰り返し、言葉のリズムを味わう。 ・作者のものの見方や感じ方を理解する。 	8	作文 定期考査 授業の取り組み
9	評論	長谷川耀『和の思想、間の文化』	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と外国の文化の違いや重なりについて考え、異文化に対する理解を深める。 ・日本文化の特質について興味を広げる。 	8	
10	評論	高階秀爾『実体の美と状況の美』	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と外国の文化の違いや重なりについて考え、異文化に対する理解を深める。 ・異文化についての筆者の考えを理解する。 	13	

10	小説	夏目漱石『こころ』	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の構成や展開をとらえ、人物の心情を読み取る。 ・作者について理解を深め、時代背景を考えたり、他の作品も読む。 ・人間存在の普遍的な問題について、自らに引きつけて考察する。 ・優れた文章表現を味わう。 	15	作文 定期考査 授業の取り組み
11	小説	森鷗外『高瀬舟』	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の構成や展開の仕方を理解し、人間や人間社会についての考えを深める。 ・優れた文章表現を味わう。 ・作者について理解を深め、時代背景を考えたり、他の作品も読む。 	15	
12					
1					
2					作文 定期考査 授業の取り組み
3					

計105時間（50分授業）

4 課題・提出物等

夏・冬・春課題	作文提出	漢字検定受検
---------	------	--------

5 評価規準と評価方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現 技能			知識・理解
関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・国語や言語文化への関心を深め、国語を尊重し、進んで理解・表現し伝え合おうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じて筋道を立てて話したり、的確に聞き取ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて適切に文章を書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり、読書に親しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現と理解に役立つために、音声、文法、表記、語句、漢字等を理解し、知識を身に付けている。
定期考査・提出物	意見発表・聞き書き	定期考査・作文	定期考査・読書記録	定期考査・作文

6 学習の仕方（授業担当者より）

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習を習慣化する。漢字の読み書きや、言葉の意味調べをして、語彙を豊かにすることで、より深い理解ができるように努力する。 ・教師や級友の話をよく聴き、明瞭な文字を書き、明朗な発声を心がけ、積極的に授業に参加する。 ・社会人として必要な、まとまった文章を「読む・書く・聞く・話す」力を養う。
--

教科(科目)	地理歴史 (世界史 A)	単位数	3 単位	学年(コース)	3 学年(共通)
使用教科書	実教出版『 新世界史 A 新訂版 』				
副教材等	第一学習社「ダイアログ世界史図表 新版三訂」				

1 学習目標

- ・近現代史を中心とする世界の歴史を、諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けてから理解させる。
- ・現代の諸問題を歴史的背景から考察させることによって、歴史的思考を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

- ①基本的な事項・事柄を精選して指導内容を構成し、細かな事象や高度な事項・事柄に深入りしない。
- ②比較文明的視点も考慮し、各時代における世界の中に日本を位置づけて考察させる。
- ③単に知識を与えるだけでなく、現代の世界が当面する課題について考察させる。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法	
4	世界史へのさざなみ ○第1部 ユーラシアの諸文明 第1章 ユーラシアの諸文明と交流	世界史へのさざなみ 1 東アジア世界の形成 2 東アジア世界の展開	・歴史の舞台としての自然環境について、河川、海峽、草原、オアシス、森林などから適切な事例を取り上げ、地形や写真などを読み取る活動を通して、自然環境と人類の活動が相互に作用し合っていることに気付かせる。	2 1 9	中間 考査 ノ ー ト 提 出	
5	東アジア 南アジア 西アジアと地中海	3 東アジア世界の発展 4 モンゴル帝国と元 5 南アジア世界の形成 6 南アジア世界の成立と展開 7 オリエンタル世界の統一 8 地中海世界の形成 9 キリスト教の成立と発展 10 イスラームの成立 11 イスラーム帝国の分裂と多様化 12 ヨーロッパ世界の形成 13 ヨーロッパ世界の展開 14 ルネサンスと宗教改革 15 大航海時代 16 絶対王政の時代 17 西ヨーロッパ世界の展開 18 東ヨーロッパ世界の展開 19 近代ヨーロッパと世界貿易 20 イスラーム諸王朝の成熟 21 オスマン帝国とヨーロッパ 22 明の消滅 23 産業革命 24 アメリカ独立革命 25 フランス革命 26 ナポレオンとウィーン体制 27 1848年の革命 28 19世紀後半のイギリスとフランス 29 19世紀後半のイタリアとドイツ 30 東方問題と19世紀のロシア 31 19世紀のアメリカ合衆国 32 西アジアの激動 33 南アジアの激動 34 東南アジアの激動 35 中華帝国の動揺 36 明治維新と東アジア 37 東アジアの変革 38 急変する社会 39 帝国主義と世界分割 40 ヨーロッパ国際関係の緊張 41 第一次世界大戦とロシア革命 42 ヴェルサイユ体制と国際連盟 43 戦間期の欧米と日本 44 西アジア・インドの民族運動 45 東アジアの民族運動 46 世界恐慌とニューディール 47 ヒトラーとムソッリーニ 48 満州事変から日中戦争へ 49 ヨーロッパでの戦争 50 アジア・太平洋戦争 (太平洋戦争) 51 国際連合と冷戦 52 ヨーロッパとアジアの冷戦 53 アジア諸国の独立 54 第三勢力の結集 55 多極化する世界 56 冷戦の終結と社会主義の変容 57 冷戦後の世界 58 21世紀の世界	・日本列島の中に見られる世界との関係や交通について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な事例を取り上げ、年表や地図などから表す活動を通して、日本の歴史が世界の歴史とつながっていることに気付かせる。 ・自然環境、生活、宗教などに着目させながら、東アジア、南アジア、西アジア、ヨーロッパが形成された諸文明の特質とユーラシアの幅、隣に接する交流を把握させる。 ・東アジアの自然環境と諸民族、漢字文化、儒教、中国を中心とする国際体制に軸し、日本を含む東アジア世界の特質をたらえさせる。 ・南アジアの自然環境と諸民族、仏教の成立、ヒンドゥー教とカースト制度、イスラームの発展に軸し、南アジア世界の特質を把握させる。 ・西アジア・地中海の自然環境と諸民族、古代オリエントの遺産、古代ギリシア・ローマの遺産、キリスト教の成立、イスラームの成立と拡大に軸し、西アジア・地中海世界の特質を把握させる。	・ヨーロッパの自然環境と諸民族、封建社会の成立、キリスト教などに軸し、ヨーロッパ世界の特質を把握させる。		1 7
6	ヨーロッパ ○第2部 一体化する世界と日本 第2章 一体化に向かう世界と日本	17 西ヨーロッパ世界の展開 18 東ヨーロッパ世界の展開 19 近代ヨーロッパと世界貿易 20 イスラーム諸王朝の成熟 21 オスマン帝国とヨーロッパ 22 明の消滅 23 産業革命 24 アメリカ独立革命 25 フランス革命 26 ナポレオンとウィーン体制 27 1848年の革命 28 19世紀後半のイギリスとフランス 29 19世紀後半のイタリアとドイツ 30 東方問題と19世紀のロシア 31 19世紀のアメリカ合衆国 32 西アジアの激動 33 南アジアの激動 34 東南アジアの激動 35 中華帝国の動揺 36 明治維新と東アジア 37 東アジアの変革 38 急変する社会 39 帝国主義と世界分割 40 ヨーロッパ国際関係の緊張 41 第一次世界大戦とロシア革命 42 ヴェルサイユ体制と国際連盟 43 戦間期の欧米と日本 44 西アジア・インドの民族運動 45 東アジアの民族運動 46 世界恐慌とニューディール 47 ヒトラーとムソッリーニ 48 満州事変から日中戦争へ 49 ヨーロッパでの戦争 50 アジア・太平洋戦争 (太平洋戦争) 51 国際連合と冷戦 52 ヨーロッパとアジアの冷戦 53 アジア諸国の独立 54 第三勢力の結集 55 多極化する世界 56 冷戦の終結と社会主義の変容 57 冷戦後の世界 58 21世紀の世界	・16世紀以降の世界商業の進展及び資本主義の確立を中心に、世界が一体化に向かう過程を理解させる。その際、世界の動向と日本のかかわりに着目させる。 ・大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアの接触と交流、アジアの諸帝国とヨーロッパの主権国家体制、大西洋世界の展開とアフリカ・アメリカ社会の変容を扱い、16世紀から18世紀までの世界の一体化の動きと近世の日本の対応を理解させる。	2 6	レ ポ ー ト 課 題 提 出	
7	第3章 ヨーロッパ・アメリカの諸 革命と世界の変動	17 西ヨーロッパ世界の展開 18 東ヨーロッパ世界の展開 19 近代ヨーロッパと世界貿易 20 イスラーム諸王朝の成熟 21 オスマン帝国とヨーロッパ 22 明の消滅 23 産業革命 24 アメリカ独立革命 25 フランス革命 26 ナポレオンとウィーン体制 27 1848年の革命 28 19世紀後半のイギリスとフランス 29 19世紀後半のイタリアとドイツ 30 東方問題と19世紀のロシア 31 19世紀のアメリカ合衆国 32 西アジアの激動 33 南アジアの激動 34 東南アジアの激動 35 中華帝国の動揺 36 明治維新と東アジア 37 東アジアの変革 38 急変する社会 39 帝国主義と世界分割 40 ヨーロッパ国際関係の緊張 41 第一次世界大戦とロシア革命 42 ヴェルサイユ体制と国際連盟 43 戦間期の欧米と日本 44 西アジア・インドの民族運動 45 東アジアの民族運動 46 世界恐慌とニューディール 47 ヒトラーとムソッリーニ 48 満州事変から日中戦争へ 49 ヨーロッパでの戦争 50 アジア・太平洋戦争 (太平洋戦争) 51 国際連合と冷戦 52 ヨーロッパとアジアの冷戦 53 アジア諸国の独立 54 第三勢力の結集 55 多極化する世界 56 冷戦の終結と社会主義の変容 57 冷戦後の世界 58 21世紀の世界	・産業革命と資本主義の確立、フランス革命とアメリカ諸国の独立、自由主義と国民主義の進展を扱い、ヨーロッパ・アメリカにおける工業化と国民国家形成を理解させる。 ・16世紀以降の世界商業の進展と産業革命後の資本主義の確立を中心に、世界の一体化の過程を理解し、その知識を身に付けるとともに、この一体化の過程におけるヨーロッパの動向と日本などアジア諸国の対応について関心を高め、意欲的に探究し、また、これらを考察・比較して、その過程や結果を適切に表現できるようにする。	2 3		期 末 考 査 ノ ー ト 提 出
9	第3章 ヨーロッパ・アメリカの諸 革命と世界の変動	17 西ヨーロッパ世界の展開 18 東ヨーロッパ世界の展開 19 近代ヨーロッパと世界貿易 20 イスラーム諸王朝の成熟 21 オスマン帝国とヨーロッパ 22 明の消滅 23 産業革命 24 アメリカ独立革命 25 フランス革命 26 ナポレオンとウィーン体制 27 1848年の革命 28 19世紀後半のイギリスとフランス 29 19世紀後半のイタリアとドイツ 30 東方問題と19世紀のロシア 31 19世紀のアメリカ合衆国 32 西アジアの激動 33 南アジアの激動 34 東南アジアの激動 35 中華帝国の動揺 36 明治維新と東アジア 37 東アジアの変革 38 急変する社会 39 帝国主義と世界分割 40 ヨーロッパ国際関係の緊張 41 第一次世界大戦とロシア革命 42 ヴェルサイユ体制と国際連盟 43 戦間期の欧米と日本 44 西アジア・インドの民族運動 45 東アジアの民族運動 46 世界恐慌とニューディール 47 ヒトラーとムソッリーニ 48 満州事変から日中戦争へ 49 ヨーロッパでの戦争 50 アジア・太平洋戦争 (太平洋戦争) 51 国際連合と冷戦 52 ヨーロッパとアジアの冷戦 53 アジア諸国の独立 54 第三勢力の結集 55 多極化する世界 56 冷戦の終結と社会主義の変容 57 冷戦後の世界 58 21世紀の世界	・ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化や侵略化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容、そのなかでの日本の動向を扱い、19世紀の世界の一体化と日本の対応を理解させる。	1 8	期 末 考 査 ノ ー ト 提 出	
10	○第3部 地球社会と日本 第4章 現代世界のあゆみ	17 西ヨーロッパ世界の展開 18 東ヨーロッパ世界の展開 19 近代ヨーロッパと世界貿易 20 イスラーム諸王朝の成熟 21 オスマン帝国とヨーロッパ 22 明の消滅 23 産業革命 24 アメリカ独立革命 25 フランス革命 26 ナポレオンとウィーン体制 27 1848年の革命 28 19世紀後半のイギリスとフランス 29 19世紀後半のイタリアとドイツ 30 東方問題と19世紀のロシア 31 19世紀のアメリカ合衆国 32 西アジアの激動 33 南アジアの激動 34 東南アジアの激動 35 中華帝国の動揺 36 明治維新と東アジア 37 東アジアの変革 38 急変する社会 39 帝国主義と世界分割 40 ヨーロッパ国際関係の緊張 41 第一次世界大戦とロシア革命 42 ヴェルサイユ体制と国際連盟 43 戦間期の欧米と日本 44 西アジア・インドの民族運動 45 東アジアの民族運動 46 世界恐慌とニューディール 47 ヒトラーとムソッリーニ 48 満州事変から日中戦争へ 49 ヨーロッパでの戦争 50 アジア・太平洋戦争 (太平洋戦争) 51 国際連合と冷戦 52 ヨーロッパとアジアの冷戦 53 アジア諸国の独立 54 第三勢力の結集 55 多極化する世界 56 冷戦の終結と社会主義の変容 57 冷戦後の世界 58 21世紀の世界	・地球規模で一体化した構造をもつ現代世界の特質と展開過程を理解させ、人類の窮題について歴史的観点から考察させる。その際、世界の動向と日本のかかわりに着目させる。 ・科学技術の発達、企業や国家の巨大化、公教育の普及と国民統合、国際的な移民の増加、マスメディアの発達、社会の大衆化と政治や文化の受容などを理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの社会の変化について、人類史的分野から考察させる。 ・帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、二つの世界大戦の原因と総力戦としての性格、それらが世界と日本に及ぼした影響を理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意識について考察させる。 ・帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、二つの世界大戦の原因と総力戦としての性格、それらが世界と日本に及ぼした影響を理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意識について考察させる。 ・第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立と日本の動向、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解させ、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察させる。 ・1970年代以降の資源高騰のグローバル化、冷戦の終結、地球統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、地球社会への歩みと地球規模で深刻化する課題について考察させる。	2 3		期 末 考 査 ノ ー ト 提 出
11	○第3部 地球社会と日本 第4章 現代世界のあゆみ	17 西ヨーロッパ世界の展開 18 東ヨーロッパ世界の展開 19 近代ヨーロッパと世界貿易 20 イスラーム諸王朝の成熟 21 オスマン帝国とヨーロッパ 22 明の消滅 23 産業革命 24 アメリカ独立革命 25 フランス革命 26 ナポレオンとウィーン体制 27 1848年の革命 28 19世紀後半のイギリスとフランス 29 19世紀後半のイタリアとドイツ 30 東方問題と19世紀のロシア 31 19世紀のアメリカ合衆国 32 西アジアの激動 33 南アジアの激動 34 東南アジアの激動 35 中華帝国の動揺 36 明治維新と東アジア 37 東アジアの変革 38 急変する社会 39 帝国主義と世界分割 40 ヨーロッパ国際関係の緊張 41 第一次世界大戦とロシア革命 42 ヴェルサイユ体制と国際連盟 43 戦間期の欧米と日本 44 西アジア・インドの民族運動 45 東アジアの民族運動 46 世界恐慌とニューディール 47 ヒトラーとムソッリーニ 48 満州事変から日中戦争へ 49 ヨーロッパでの戦争 50 アジア・太平洋戦争 (太平洋戦争) 51 国際連合と冷戦 52 ヨーロッパとアジアの冷戦 53 アジア諸国の独立 54 第三勢力の結集 55 多極化する世界 56 冷戦の終結と社会主義の変容 57 冷戦後の世界 58 21世紀の世界	・ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化や侵略化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容、そのなかでの日本の動向を扱い、19世紀の世界の一体化と日本の対応を理解させる。	1 8	期 末 考 査 ノ ー ト 提 出	
12	第5章 第二次世界大戦後の世界	17 西ヨーロッパ世界の展開 18 東ヨーロッパ世界の展開 19 近代ヨーロッパと世界貿易 20 イスラーム諸王朝の成熟 21 オスマン帝国とヨーロッパ 22 明の消滅 23 産業革命 24 アメリカ独立革命 25 フランス革命 26 ナポレオンとウィーン体制 27 1848年の革命 28 19世紀後半のイギリスとフランス 29 19世紀後半のイタリアとドイツ 30 東方問題と19世紀のロシア 31 19世紀のアメリカ合衆国 32 西アジアの激動 33 南アジアの激動 34 東南アジアの激動 35 中華帝国の動揺 36 明治維新と東アジア 37 東アジアの変革 38 急変する社会 39 帝国主義と世界分割 40 ヨーロッパ国際関係の緊張 41 第一次世界大戦とロシア革命 42 ヴェルサイユ体制と国際連盟 43 戦間期の欧米と日本 44 西アジア・インドの民族運動 45 東アジアの民族運動 46 世界恐慌とニューディール 47 ヒトラーとムソッリーニ 48 満州事変から日中戦争へ 49 ヨーロッパでの戦争 50 アジア・太平洋戦争 (太平洋戦争) 51 国際連合と冷戦 52 ヨーロッパとアジアの冷戦 53 アジア諸国の独立 54 第三勢力の結集 55 多極化する世界 56 冷戦の終結と社会主義の変容 57 冷戦後の世界 58 21世紀の世界	・地球規模で一体化した構造をもつ現代世界の特質と展開過程を理解させ、人類の窮題について歴史的観点から考察させる。その際、世界の動向と日本のかかわりに着目させる。 ・科学技術の発達、企業や国家の巨大化、公教育の普及と国民統合、国際的な移民の増加、マスメディアの発達、社会の大衆化と政治や文化の受容などを理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの社会の変化について、人類史的分野から考察させる。 ・帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、二つの世界大戦の原因と総力戦としての性格、それらが世界と日本に及ぼした影響を理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意識について考察させる。 ・帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、二つの世界大戦の原因と総力戦としての性格、それらが世界と日本に及ぼした影響を理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意識について考察させる。 ・第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立と日本の動向、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解させ、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察させる。 ・1970年代以降の資源高騰のグローバル化、冷戦の終結、地球統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、地球社会への歩みと地球規模で深刻化する課題について考察させる。	2 3		期 末 考 査 ノ ー ト 提 出
1	第5章 第二次世界大戦後の世界	17 西ヨーロッパ世界の展開 18 東ヨーロッパ世界の展開 19 近代ヨーロッパと世界貿易 20 イスラーム諸王朝の成熟 21 オスマン帝国とヨーロッパ 22 明の消滅 23 産業革命 24 アメリカ独立革命 25 フランス革命 26 ナポレオンとウィーン体制 27 1848年の革命 28 19世紀後半のイギリスとフランス 29 19世紀後半のイタリアとドイツ 30 東方問題と19世紀のロシア 31 19世紀のアメリカ合衆国 32 西アジアの激動 33 南アジアの激動 34 東南アジアの激動 35 中華帝国の動揺 36 明治維新と東アジア 37 東アジアの変革 38 急変する社会 39 帝国主義と世界分割 40 ヨーロッパ国際関係の緊張 41 第一次世界大戦とロシア革命 42 ヴェルサイユ体制と国際連盟 43 戦間期の欧米と日本 44 西アジア・インドの民族運動 45 東アジアの民族運動 46 世界恐慌とニューディール 47 ヒトラーとムソッリーニ 48 満州事変から日中戦争へ 49 ヨーロッパでの戦争 50 アジア・太平洋戦争 (太平洋戦争) 51 国際連合と冷戦 52 ヨーロッパとアジアの冷戦 53 アジア諸国の独立 54 第三勢力の結集 55 多極化する世界 56 冷戦の終結と社会主義の変容 57 冷戦後の世界 58 21世紀の世界	・地球規模で一体化した構造をもつ現代世界の特質と展開過程を理解させ、人類の窮題について歴史的観点から考察させる。その際、世界の動向と日本のかかわりに着目させる。 ・科学技術の発達、企業や国家の巨大化、公教育の普及と国民統合、国際的な移民の増加、マスメディアの発達、社会の大衆化と政治や文化の受容などを理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの社会の変化について、人類史的分野から考察させる。 ・帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、二つの世界大戦の原因と総力戦としての性格、それらが世界と日本に及ぼした影響を理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意識について考察させる。 ・帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、二つの世界大戦の原因と総力戦としての性格、それらが世界と日本に及ぼした影響を理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意識について考察させる。 ・第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立と日本の動向、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解させ、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察させる。 ・1970年代以降の資源高騰のグローバル化、冷戦の終結、地球統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、地球社会への歩みと地球規模で深刻化する課題について考察させる。	1 8	期 末 考 査 ノ ー ト 提 出	

計 105 時間 (50 分授業)

4 課題・提出物等

ノートおよびレポート課題

5 評価基準と評価方法

評価は次の観点から行います。				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用・対話	知識・理解	
近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に探究することができる。とともに、国際社会に主体的に生き、国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	現代世界の諸問題を歴史的背景から考察し、国際社会の変化を踏まえ公平に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けてから理解し、その知識を身に付けている。	
授業態度、プリント、レポートへの取り組みの姿勢と内容、定期テスト、などから、総合的に評価します。				

6 担当者からの一言

身近な事柄と世界史とのかかわりへの関心や、諸地域と歴史の流れの理解を大切に、現代の世界が当面する課題について歴史的な背景を踏まえて考察する力を養いたいと思います。
(担当：池田孝一)

令和2年度シラバス (数学)

教科 (科目)	数学 (数学A)	単位数	2	学年 (コース)	3 学年
使用教科書	『 第一学習社 新編数学A 』				
副教材等	『 第一学習社 スタディ数学A 』				

1 学習目標

場合の数と確率、整数の性質または図形の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 指導の重点

場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。平面図計や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。単元ごとに課題学習を行い、身近な課題について主体的に学習し、数学のよさを認識させる。

3 学習計画

月	単元名 (教材等)	主要学習領域	学習内容	時間	評価方法
4 ～ 10	1章 場合の数と確率	集合と場合の数	集合と要素の個数	2	中間考査 期末考査 課題等の提出物 授業の取り組み
			数えあげの原則	2	
			順列	4	
			組合せ	4	
4 ～ 10	確率とその基本性質	事象と確率 確率の基本性質 余事象	事象と確率	3	
			確率の基本性質	3	
			余事象	2	
4 ～ 10	いろいろな確率	独立な試行の確率 反復試行の確率 条件つき確率	独立な試行の確率	3	
			反復試行の確率	4	
			条件つき確率	3	
11 ～ 3	3章 図形の性質	三角形と比	バーコードの仕組み	1	
			三角形と比	三角形と比	4
				三角形と重心・外心・内心	3
				チェバの定理・メネラウスの定理	4
			円の性質	円周角の定理	2
				円に内接する四角形	4
				円と接線	3
				接線と弦のつくる角	3
				方べきの定理	3
			作図	2つの円	2
作図 (平行線の作図・線分の作図)	4				
空間図形	空間における直線と平面 の位置関係	2			
	多面体	2			
	課題学習	最短の経路	1		

計70時間 (50分授業)

4 課題・提出物等

長期休業中(春休み・夏休み・冬休み)には課題を出す。各学期において、随時ノート提出させる。その他、授業中に小テストや演習課題などを課す。

5 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
考え方や体系に関心を持つとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用している。	数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考察するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考え、表現できる。	事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決している。	基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けることができる。

以上の観点を踏まえ、授業の取組 (授業態度、問題演習など)、小テスト、自習課題、ノート等の提出物、長期休業中の課題の提出状況、定期テストなどから総合的に評価する。

6 担当者より一言

黒板に書かれたものをただノートに写すのではなく、どうしてそうなるのかを良く考える。また、教科書の問題だけで満足せず自らワークの問題に取り組み、わからない所はそのままではなく、担当教師に質問すること。

令和2年度シラバス（保健体育）

教科（科目）	保健体育(体育)	単位数	3	学年（コース）	3学年
使用教科書	現代保健体育			出版社	大修館書店
副教材等	アクティブ・スポーツ（ルールブック）				

1 学習目標

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2 指導の重点

各種の運動の合理的な実践を通して、
 ① 運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
 ② 体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育てる。
 ③ 生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
 ④ 基本的な生活習慣と社会のルール、マナーの遵守ができる生徒の育成に努め、その定着を図る。

3 指導計画

月	単元名（教材等）	主要学習領域	学習内容	配当時間	評価方法
4	体づくり運動		・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	12 時間	評価基準と評価方法の観点をふまえて、各学習内容についてそれぞれ評価する。
5 6	選択①・球技ゴール型 ・球技ベースボール型 ・球技ネット型 ・武道		・サッカー ・ソフトボール ・バレーボール ・柔道	20 時間	
7 9	選択②・器械体操 ・陸上競技		・マット運動・跳び箱 ・混成競技	20 時間	
9 10	陸上競技		・持久走	12 時間	
11 12	選択③・球技ゴール型 ・球技ベースボール型 ・球技ネット型 ・武道		・バスケットボール ・バドミントン ・バレーボール ・柔道	20 時間	
12	体育理論		3単元豊かなスポーツライフの設計	6 時間	
1 2	選択③・球技ゴール型 ・球技ネット型 ・球技ネット型 ・武道		・バスケットボール ・バドミントン ・バレーボール ・柔道	15 時間	

計 105 時間（50 分授業）

4 課題・提出物等

身体的理由により、運動が制限される生徒に対しては、レポート作成を指導する。

5 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②思考・判断	③運動の技能	④知識・理解
運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動をしようとしている。	生涯の豊かなスポーツライフの実現を目指して、個人の課題に応じた運動を継続するために取り組み方を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じた技能を高め、各領域で段階的な技能を身に付けている。	生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身に付けている。
以上の観点をふまえ、総合的に評価します。			
① 関心・意欲・態度 30% ②思考・判断 20% ③技能・表現 30%④知識・理解 20%			

6 学習の仕方（授業担当者より）

・集団行動を身につけ、約束やきまりを守って活動できるように指導する。
 ・担当教諭の指示をしっかりと把握し、安全に留意しながら仲間と協力して活動すること。

科目	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	2単位	学年	3学年
使用教科書	『VISTA English Communication Ⅱ』 (三省堂)				
副教材	『エースクラウン英和辞典』『VISTAWorkbook』 (三省堂) 『フレーズで英単語3000』『フレーズで英単語3000 WORKBOOKⅡ』 (浜島書店)				

1. 学習目標

幅広い題材を通して英語で聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力をさらに伸ばすとともに、自分の意見や考えを積極的に伝えようとする態度を育成する。

2. 指導の重点

- ① 1・2年次での学習内容をふまえ、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能をさらに伸ばす。
- ② 教科書の題材を通して、異文化を理解しようとする心や社会への関心、自身・自国への関心を高める。
- ③ 場面や目的に応じて、自分自身の考えや思いを適切に表現する能力を養う。
- ④ 英語学習に対する積極的な態度を養う。

3. 学習計画

学期	単元	内容	時数	評価の観点・備考
1 学期	オリエンテーション	授業の進め方等説明	1	
	Lesson 6: Becoming the Best	世界のトッププレイヤーになるには? ○how to do ○It seems that ~	1 3	ワークブック 音読、授業態度 確認テスト
	Lesson 7: The Galapagos Islands	今、ガラパゴス諸島に起こっていることは何かを知る。 ○現在完了進行形 ○形式目的語It	1 3	提出物
	単語テスト (5回) 中間考査・期末考査	英単語、熟語、和訳 (20点満点)	4	定期考査
2 学期	Lesson 8: Shodo, Old and New	伝統文化を新しいスタイルで発展させることについて考える。 ○部分否定 ○can be done	1 3	ワークブック 音読、授業態度 確認テスト
	Lesson 9: Water World	昔の水族館、現代の水族館について知り、また現代技術の果たした役割を考える。 ○関係代名詞の非制限用法 ○have been done	1 3	提出物
	単語テスト (7回) 中間考査・期末考査	英単語、熟語、和訳 (20点満点)	4	定期考査
	Lesson 10: A Long Friendship	日本とトルコの友好関係を知り、協調、共生のためにはどんな心がけが必要かを考える。 ○過去完了形 ○強調構文	8	1・2学期と同様
3 学期	学年末考査		1	定期考査

計 70 回(50分授業)

4. 課題・提出物等

- ・学期毎にファイル、ワークブック・ノート点を点検します。各Lessonで配付されたプリントを必ずファイルにことじてください。
- ・長期休業中に課題を出します。必ず提出期限を守って提出しましょう。

5. 評価規準と評価方法

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	各レッスンの文法事項を使いながら、日常的な話題について情報や考えなど伝えたいことを話したり書いたりする。	英語を読んだり聞いたりして情報や内容について大切な部分を整理して理解することができる。	幅広い話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけると共に、その背景にある文化などを理解している。

以上の観点をふまえ、
 ・授業の取組 (授業態度、学習活動への参加状況など)
 ・提出物 (ワークブック、ノート、課題等) の内容
 ・小テスト (確認テスト、単語テスト)
 ・定期テスト
 などから、総合的に評価します。

教科(科目)	家庭 (家庭総合)	単位数	2単位	学年(コース)	3学年全員
使用教科書	東京書籍 『家庭総合』				
副教材等	なし				

1 学習目標

生活課題を主体的に解決することができるように、高齢者福祉・食生活・消費生活・住生活に関する知識と技術を学習し、家庭生活の充実向上を図る実践的な態度を育てる。

2 指導の重点

・家庭生活に必要な情報や資料などに興味・関心をもち、生活をよりよくしようとする意識を育てます。
 ・自立した生活ができるように手や体を動かす実験・実習を重視します。特に調理実習では安全に配慮し、協力して準備や後片付けを行い、日常生活での実践力の育成を目指します。

3 学習計画

4 5	3章 高齢社会を生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢期を理解する ・高齢者の心身の特徴 ・高齢者を支える ・これからの高齢社会 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会の現状と課題を理解する。 ・高齢期の心身の特徴と支援する方法を知る。 ・高齢者を支える制度と課題を考える。 	1 0	定期テスト 授業の取り組み 提出物
6	4章 共に生きる、共に支える	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活と福祉 ・社会保障の考え方 ・誰もが暮らしやすい社会を目指してユニバーサルデザインや防災力を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・一生を通して福祉や社会的支援の必要性を知る。 ・社会保障制度の理念と内容を理解する。 ・多様な人々のニーズ、ノーマライゼーション、ユニバーサルデザインの理念を理解する。 	6	定期テスト 授業の取り組み 提出物
7 9 1 0 1 1 1 2	6章 食生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の食生活の課題について考える ・食事と栄養・食品 ・食生活の安全と衛生 ・調理の基礎) ・食文化、配膳や食事マナー、環境への配慮 	<ul style="list-style-type: none"> ・食生活の変化や課題について理解する。 ・食品の選択や調理の際の安全に関する必要項目を知る。 ・自立に必要な基本的な調理技術を学び、日常食を作れるようになる。 ・生涯を通じて健康で安全な食生活を営む力を身に付ける。 	4 6	定期テスト 授業の取り組み 提出物
1 2 3	8章 住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・住生活の計画と選択 ・住生活の文化と知恵 ・これからの住生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・平面図の基礎知識を習得し、間取りや動線について理解する。 ・室内外の環境に着目し、安全性・快適性を考慮する必要性を理解する。 	8	定期テスト 授業の取り組み 提出物

計70時間 (50分授業)

4 課題・提出物等

学習ノート、実験・実習レポート、各種ワークシート

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・生活への関心興味を持ち、安全で快適な生活について考えようとしている。 ・食生活や経済生活・住環境に関心を持ち、家庭と社会との関わりについて考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活上の課題を見だし、それを解決する方法を具体的に表現している。 ・自分を見つめ、自分の人生や進路について考えを深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全に配慮し、実習を行っている。 ・生活に役立つ情報を収集・整理し、調査・検討することができる。 ・生活に必要な基礎的な技術を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分らしく生きるための目標を持ち、家庭生活や健康に関する正しい知識を身に付けている。 ・安全と環境に配慮した生活を送れる知識が身に付いている。

以上の観点を踏まえ、
 ・授業の取組 (授業態度、学習活動への参加状況など)
 ・提出物の内容
 ・定期テスト
 などから総合的に評価します。

6 担当者からの一言

授業態度を重視します。欠席や遅刻や忘れ物をせず、望ましい授業態度で積極的授業に臨んで下さい。調理実習や各種実験・実習においては説明を良く聞き、安全や衛生管理に留意して作業を行ってください。調理実習ごとに調理の要点をまとめ、食品分類を行い、感想等を記入したレポートを提出します。調理実習中の参加態度、身支度とともに評価の対象になります。
 身の回りの事柄に興味や課題意識を持ち、自分や家族の生活を見直し改善していきましょう。卒業後、自立した生活を営むことができる知識と技術を習得し、健康で、賢い消費者になれるような力を身につけて下さい。
 (担当： 藤塚陽子)